

航空保安大学校（本校）

Aeronautical Safety College

令和7年度 研修細目

Syllabuses 2025

本科（航空情報科）

航空管制運航情報職員基礎研修

航空交通管制通信職員基礎研修

本科（航空電子科）

航空交通管制技術職員基礎研修

システム専門官基礎研修

航空交通管制職員基礎研修

令和7年 3月24日制定

令和7年 4月 1日発行

国土交通省

航空保安大学校

目次

I.	研 修 課 程 概 要
II.	カリキュラム一覧・科目間相関図
III.	研 修 内 容
IV.	使 用 教 科 書 一 覧
V.	改正事項・理由・新旧比較

※ それぞれの項目は以下の順序で構成される。

1. 本科（航空情報科 1 学年）
2. 本科（航空情報科 2 学年）
3. 航空管制運航情報職員基礎研修（前期）
4. 航空管制運航情報職員基礎研修（後期）
5. 航空交通管制通信職員基礎研修
6. 本科（航空電子科 1 学年）
7. 本科（航空電子科 2 学年）
8. 航空交通管制技術職員基礎研修
9. システム専門官基礎研修
10. 航空交通管制職員基礎研修

I . 研修課程概要

1. 本科 航空情報科（1 学年/ 2 学年）研修課程概要

本科 航空情報科

研修コース	略称	研修時間数	科 目 ※単位は時間				
			学 科				実 技
航空情報科1学年 (57期)	情 1	1,560時間 (1年)	一般教養 195	外国語 180	保健体育 45	専門科目 1,027	情報実習 113
航空情報科2学年 (56期)	情 2	1,560時間 (1年)	一般教養 —	外国語 180	保健体育 45	専門科目 822	情報実習 513
目 的							
航空保安業務に携わる国家公務員（国土交通技官）として、自立して業務を遂行するために必要な行政の基礎及び教養を身につける。 2 年間で、航空保安職員として必要な教養及び運航情報業務及び管制通信業務に係る基礎知識・技術等を修得し、その後の専門研修が円滑に実施できるレベルに到達する。							
修了時の到達目標							
○運航情報業務 【運航援助業務】 ・運航監視を行いながら、飛行計画の受理・審査及びATS通報を取り扱うことができる。搜索救難やイレギュラー運航発生時に、初期対応を行える。 ・航空情報の解読、整理、提供ができる。また、簡易な内容の航空情報発行依頼手続きができる。 ・受信した気象情報をもとにATIS情報を作成することができる。また、ATIS情報を口頭で提供することができる。 【飛行場情報業務】 ・航空機の駐機スポットアサインを行える。制限区域内で事案が発生した時の対応を説明できる。制限表面の作図を行い、障害物の判定ができる。 【対空援助業務】 ・飛行場対空援助局及び他飛行場援助局（2 サイト 1 卓）において同時に存在する着陸・出発・通過のいずれか 3 機に対し、基本的な情報提供及び管制通報の中継を行える。 ・広域対空援助局において、航空機からの位置通報及び到着時刻の通報、民間訓練試験空域の使用に関する通報、気象情報に係る基本的な内容の通信を取扱うことができる。 ○管制通信業務（国際対空通信業務） ・国際対空通信局において、航空機の位置通報、管制通報、気象情報に係る基本的な内容の通信を取り扱うことができる。							
取得する資格等							
航空無線通信士（在学中の受験により取得）※1学年次に【無線従事者養成課程（航空無線通信士）】を含む 航空管制運航情報職員基礎試験合格証明書（2 学年修了時に取得） 航空交通管制通信職員基礎試験合格証明書（2 学年修了時に取得）							

2. 航空管制運航情報職員基礎研修（前期）研修課程概要

航空管制運航情報職員基礎研修（前期）

研修コース	略称	研修時間数	科目 ※単位は時間				
			学科				実技
航空管制運航情報職員 基礎研修（前期）	情前	520時間 （4ヶ月）	一般教養 —	外国語 60	保健体育 —	専門科目 310	運航情報実習 150
目 的							
航空保安業務に携わる国家公務員（国土交通技官）として、自立して業務を遂行するために必要な行政の基礎及び教養を修得する。 4ヶ月で、航空保安職員として必要な教養及び運航情報業務のうち運航援助業務に係る基礎知識・技術等を修得し、その後の専門研修が円滑に実施できるレベルに到達する。							
修了時の到達目標							
○運航情報業務 【運航援助業務】 ・運航監視を行いながら、飛行計画の受理・審査及びATS通報を取り扱うことができる。搜索救難やイレギュラー運航発生時に、初期対応を行える。 ・航空情報の解読、整理、提供ができる。また、簡易な内容の航空情報発行依頼手続きができる。 ・受信した気象情報をもとにATIS情報を作成することができる。また、ATIS情報を口頭で提供することができる。							
取得する資格等							
航空管制運航情報職員基礎試験合格証明書（修了時に取得） 注：運航援助業務に係る部分のみ							

3. 航空管制運航情報職員基礎研修（後期）研修課程概要

航空管制運航情報職員基礎研修（後期）

研修コース	略称	研修時間数	科目 ※単位は時間				
			学科				実技
航空管制運航情報職員 基礎研修（後期）	情後	845時間 （7ヶ月）	一般教養 —	外国語 90	保健体育 —	専門科目 535	情報実習 220
目 的							
7ヶ月で、航空保安職員として必要な運航情報業務のうち対空援助業務に係る基礎知識・技術等を修得し、その後の専門研修が円滑に実施できるレベルに到達する。							
修了時の到達目標							
○運航情報業務 【対空援助業務】 ・飛行場対空援助局及び他飛行場援助局（2サイト1卓）において同時に存在する着陸・出発・通過のいずれか3機に対し、基本的な情報提供及び管制通報の中継を行える。 広域対空援助局において、航空機からの位置通報及び到着時刻の通報、民間訓練試験空域の使用に関する通報、気象情報に係る基本的な内容の通信を取扱うことができる。 航空保安大学校規則に定める飛行場情報業務及び対空援助業務に係る基礎研修の一部については、岩沼研修センターで実施する。研修時間数のうち、本校で実施するのは学科373.0時間、実技179.5時間。							
取得する資格等							
航空管制運航情報職員基礎試験合格証明書（修了時に取得）							

4. 航空交通管制通信職員基礎研修 研修課程概要

航空交通管制通信職員基礎研修

研修コース	略称	研修時間数	科目 ※単位は時間				
			学科				実技
航空交通管制通信職員 基礎研修	管通	104時間 (1ヶ月)	一般教養 —	外国語 20	保健体育 —	専門科目 44	管制通信実習 40
目 的							
1ヶ月で、航空保安職員として必要な航空交通管制通信業務に係る基礎知識・技術等を修得し、その後の専門研修が円滑に実施できるレベルに到達する							
修了時の到達目標							
○管制通信業務（国際対空通信業務） ・国際対空通信局において、航空機の位置通報、管制通報、気象情報に係る基本的な内容の通信を取り扱うことができる。							
取得する資格等							
航空交通管制通信職員基礎試験合格証明書（修了時に取得）							

5. 航空電子科（1学年/2学年）研修課程概要

本科 航空電子科

研修コース	略称	研修時間数	科目 ※単位は時間				
			学科				実技
航空電子科1学年 （57期）	電 1	1,560時間 （1年）	一般教養 195	外国語 135	保健体育 45	専門科目 1,030	電子実習 155
航空電子科2学年 （56期）	電 2	1,560時間 （1年）	一般教養 －	外国語 140	保健体育 45	専門科目 1,085	電子実習 290
目 的							
航空保安業務に携わる国家公務員（国土交通技官）として、自立して業務を遂行するために必要な行政の基礎及び教養を身につける。 2年間で、航空保安職員として必要な教養及びシステム管理業務及び航空保安無線施設等の技術的操作業務に係る基礎知識・技術等を修得する。							
修了時の到達目標							
○航空交通管制技術業務 ・航空管制技術官の業務を理解し、説明できる。 ○システム管理業務 及び 航空保安無線施設等の技術的操作業務 ・航空管制技術官の所掌する航空通信装置・航法装置・監視装置について、原理や装置構成及び機能を説明することができる。 ・航空交通管制情報処理システムのシステム構成及び機能を説明することができる。 ・手順書を確認しながら各装置の基本的な操作及び点検ができる。 ・各装置の操作及び点検結果から、それら装置の状態を把握できる。 ・各操作及び点検が運用に与える影響について説明することができる。							
取得する資格等							
第二級陸上無線技術士 （在学中の受験により取得） 必須 第一級陸上無線技術士 （在学中の受験により取得） 航空管制技術職員基礎試験合格証明書 （2学年修了時に取得）							

6. 航空交通管制技術職員基礎研修 研修課程概要

航空交通管制技術職員基礎研修

研修コース	略称	研修時間数	科目 ※単位は時間				
			学科				実技
航空交通管制技術職員 基礎研修	技基	388時間 (3ヶ月)	一般教養 —	外国語 —	保健体育 —	専門科目 258	管制技術実習 130
目 的							
航空保安業務に携わる国家公務員（国土交通技官）として、自立して業務を遂行するために必要な行政の基礎及び教養を修得する。 3ヶ月で、航空保安職員として必要な教養及びシステム管理業務及び航空保安無線施設等の技術的操作業務に係る基礎知識・技術等を修得する。							
修了時の到達目標							
○航空管制技術業務 ・航空管制技術官の業務の概要を理解し、説明できる。 ○システム管理業務 及び 航空保安無線施設等の技術的操作業務 ・航空管制技術官の所掌する無線関係施設（航空保安無線施設・航空通信施設・レーダー施設・管制情報処理システム・その他の無線に係る施設）について装置構成及び機能の概要を説明することができる。 ・手順書を確認しながら各装置の基本的な操作及び点検ができる。 ・各装置の操作及び点検結果から、それら装置の状態を把握できる。 ・各操作及び点検が運用に与える影響について説明することができる。							
取得する資格等							
航空交通管制技術職員基礎試験合格証明書（修了時に取得）							

7. システム専門官基礎研修 研修課程概要

システム専門官基礎研修

研修コース	略称	研修時間数	科目 ※単位は時間				
			学科				実技
システム専門官基礎研修	シ専	1,125時間 (9ヶ月)	一般教養	外国語	保健体育	専門科目	情報処理実習
			—	—	—	905	220
目 的							
航空保安業務における航空交通管制情報処理システム関連の企画、立案、開発、維持に関して必要となるテクニカルスキル・コンセプチュアルスキル・ヒューマンスキルを習得する。							
修了時の到達目標							
○航空保安業務と航空交通管制情報処理システム ・ 航空管制官の業務概要を理解し、説明することができる ・ 航空管制運航情報官の業務概要を理解し、説明することができる ・ 航空管制技術官の業務概要を理解し、説明することができる ・ 航空交通管制情報処理システムの全体構成を把握し、説明することができる ○情報システムの設計開発 ・ 情報システムの開発サイクルを理解し、各工程の目的及び作業を説明することができる ・ 情報システムの開発に関する上流及び下流工程の具体的手法について理解し、説明することができる ・ 情報システムの開発に関わるプロジェクトマネジメントの手法を理解し、説明することができる							
取得する資格等							
航空交通管制情報処理システム基礎試験合格証明書（修了時に取得）							

8. 航空交通管制職員基礎研修 研修課程概要

航空交通管制職員基礎研修

研修コース	略称	研修時間数	科 目 ※単位は時間				
			学科				実技
航空交通管制職員 基礎研修 (147期,148期,149期)	管制	1,020時間 (8ヶ月)	一般教養	外国語	保健体育	専門科目	管制実習
			-	63	-	594	363
目 的							
航空保安業務に携わる国家公務員（国土交通技官）として、自立して業務を遂行するために必要な行政の基礎及び教養を修得する。							
8ヶ月で、航空保安職員として必要な教養及び航空管制業務に係る基礎知識・技術（基本動作）等を修得し、その後の専門研修が円滑に実施できるレベルに到達する。							
修了時の到達目標							
○航空交通管制業務 【飛行場管制業務】 ・飛行場に離着陸する航空機に対し、離着陸順序、時機等の指示をするために、後方乱気流管制方式などの管制方式の適用や関連機への交通情報を提供ができる。 【進入管制業務】 ・進入管制区を飛行するIFR出発機と、進入管制区に高度逆順で入域する複数のIFR到着機を、レーダーを使用せずに中間待機経路を使用して管制できる。 【ターミナル・レーダー管制業務】 ・進入管制区を飛行するIFR出発機と複数のIFR到着機を、レーダーを使用して管制できる。 【航空路管制業務】 ・巡航機、到着機、出発機に対し、レーダーを使用して管制できる。出発機に対し、管制承認を発出できる。							
取得する資格等							
航空無線通信士（在学中の受験により取得） ※【無線従事者養成課程（航空無線通信士）】を含む 航空交通管制職員基礎試験合格証明書（修了時に取得）							